

安芸太田町第二次安芸太田町長期総合計画第3回審議会 主な意見

- ◆日 時 令和元年9月2日(金) 14:00~16:20
- ◆場 所 本庁東館2階大集会室
- ◆参加者 別紙名簿

1. 開会…伊藤会長あいさつ

2. まちづくりの主要な課題の抽出について 資料2 資料2-1、参考資料1、2、4
- ・安芸太田町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議での主な意見 資料2-2
 - ・時代の潮流 資料2-3
 - ・後期基本計画体制図(案) 資料2-4

●委員から出た主な意見

○全体的に協働プロセスの重視型という視点を持ったことは素晴らしい。

○定年が伸びることによって地域を支える人材の確保が難しくなることが懸念され、地域の自治を自治会のみで対応することにも限界がある。上殿地域では、NPO法人上殿未来会議が今までの自治会のカテゴリとは違う組織で地域を支えている。

○5Gは電波の届く範囲が狭く、鳥が感電死するという事例もある、本町のような広範囲で人口の点在する町で全域をカバーするのは環境的にも負担がかかる。5G等の次世代の技術を地域の課題と具体的に結び付けるにはもう少し慎重な検討が必要なのではないかと感じる。

○Society5.0は、高齢者の多い町でどれだけ浸透していくのか、この町に沿った施策を検討するべきではないか。

○教育に関していうと、本町の教育は県レベルを基準にしており、市内の高校に入学したが、授業についていけないという生徒もいる。

○子育て、教育次世代育成について、小学校でタブレットを使った授業をされており驚いた。

○わくわくフェスタという子育て向きのイベントをやっていく中で、もう少しいろんな団体とつながりあうことができれば、町内外及び世代間の交流につながる。

○全体の体制図、これから完成していくにあたって、数字目標、KPIというものがここに必要になってくると思うが、体制図ができた時点で大項目は必要。数値目標がないと分かりにくい。

3. 基本構想(改訂案)について 資料3

●委員から出た主な意見

○自然環境、防災、環境保全、観光や商工、二次産業全てにおいて、きちんとした学術的な調査、科学的な裏付けがあって初めて価値が出ることもある。安芸太田町は調査されているものが少ない。

○詳細な資料であるが、大変総花的でわかりにくい。目指す将来像を、特色を打ち出していくべき

○持続可能な町を目指す際に跡継ぎの問題が大きい。定住人口対策は、町は喫緊の課題だと思うが位置付けがきわめて弱い。

○現在6,000人というグラフを極力維持していくことに絞ることをこの計画の最大のテーマに据えるべきだと思う。

○毎回この資料を見て思うが、強い意志という物が感じられない。

○前期の計画の評価、反省を解りやすく示す必要があると思う。

○個々の施策にはK P Iが必要だという話だが、本来目指す数字で個人的には、3つ、一つは人口、二番目は、町内総生産、三番目は住民、事業者の満足度だと思う。これがK P Iの上にあるK G Iとなり、それが明確になるとインパクトがある計画になる。また、この施策が全部結びつくと思う。

○とんがった施策というのは失敗すると大失敗の可能性がある。インパクトのある施策は実効性のある効果の高い施策の方が大切で、事業評価が重要になると思う。

○最初に協働プロセス重視型の仕組みが整った繋がりあるまち、というところで今までよりも協働プロセスを重視するということはかなり強く打ち出しているように思う。これは僕自身インパクトのある大変効果が高いのではなかなと思っ、実行できれば。

4. 分野別基本方針について 資料 4

●委員から出た主な意見

○主な取り組みをすれば目指す方向性がどう関連しているのかがわかりにくい。この文章では読み取れなかった。

○母親として一言、高齢者等が安心して暮らすことができる住環境と書いているが、ぜひ、乳幼児医療や子どもの医療についても一言、主な取り組みを掲げていただけるとありがたい。

○コミュニティで、集落機能の維持が難しくなっている地域も現れていることから、地域の枠組みではない考え方というか、民間同士でつながっていくような自治会ではない形の行政との関わり方を検討する必要がある。

○産業・観光・しごと分野についてだが、全体的に事業の評価システムというか指標、総評をどのようにしていくのか明らかにしてほしいと思う。

○ちゃんと評価しないと新しい事業に繋がらない、行政内部だけではなく第三者が入る評価の方法をしてほしい。

○まちの自然環境をフル活用したという試みに期待をもってみている。エコツーリズム推進法というところで良いと思っている。

○特に観光に絡めると、文化財保護法関係の文化庁の予算であったり、農林水産省であったり、観光庁、環境省等の交付金の活用する方法がある。それらを全て総合的に活用していくということになる。分野横断でフルに活用できる仕組みというか、部署が必要になるのではないかと思う。

○この後期総合計画が修了するぐらいの時に、三段峡が名勝指定されて100周年というのを迎える。本町の観光の目玉を、長期総合計画、または観光振興基本計画の中で大事にしてほしい。

○自然資源を活用していく中では、自然の知識を蓄積していく調査、資料、聞き取り、記憶し、蓄積していく場所がなければ自然資源の活用というのは表面的なものにしかならない。ビジターセンターのようなものが町に必要だと思う。これは、観光振興基本計画の中にもビジターセンター等については触れている。その必要性については議論されて必要であるというのは認識されていると思うので、ぜひこれもしっかり実現できるようによろしくお願いいたします。

○この計画には、何をどうしていくのか、具体的なものが書かれていない。

○子育て、教育、次世代育成について、小中学校の授業でアイパッドが使用されたり、ALTの配置等これからの時代を生き抜いていく子どもたちに関しては英語教育というのは必須である。極端な話、このまちの子どもたちは英会話ができます、というアピールができればよい。

○医療は、実際に高齢者の方は公共交通機関が乏しく、タクシーなどを利用すると運賃が高い。バス代も郊外線なので高い。高齢者の方の交通手段を確保してあげることが大事。

○子どもたちのことも考えるのであれば、週に1回でも2回でもいい、小児科医が来てもらえると、お母さんたちは安心すると思う。もしくは、小児科を経験した先生が一人でもいれば母親は安心するのではないか。

○定住人口対策としてUターン、Iターン、という外から呼び込んでくるということも大切だが、次世代育成、高校生とか今の安芸太田町にいる若い世代の方々が、いったんは外に出て、将来帰ってきたと思ってもらえるような経験を安芸太田町にいる間にしていければ良いと思う。

○集落や地区を超えた交流を持ち、安芸太田町を一带としてとらえられるような交流が重要になると感じている。

○医療が今後、福祉分野とか介護分野とどこまで連携して参入できるのかが地域医療の今後のポイントである。

○病院単体で完結するというよりも、地域、高度急性期の病院と連携することが安芸太田町の医療のポイントではないかと思っている。

○子育て、教育、世代分野の方針について、全国学力学習状況調査、中学校3年生の英語、これは県内トップクラスだった。ALT2名、コーディネーター1名の3名体制、これが非常に大きな英語活用力という部分で力をつけている。

○人間関係を作る温かい力というのはこの少人数の教育の中でも育っていくということを実感している。

○乳幼児医療に関しては、小児科がないので、小児科に行くまでの交通費を町で負担するとか、県とかより一歩先に売り出せば、安芸太田町はこういう政策をやっているとPRできるので、一足先に子育て盛り世代に向けた大きな取組みを掲げてみるのもいいのではないかと思った。

○出生数のほうも20名弱ということで若干危機感を持っている。教育が維持できるのか、どんな教育環境になるのか、保護者も気にされていると思う。その中で、学校の在り方、教育でITを活用しているのは非常に有効と思う。また、少ない人数を逆手にとって手厚い教育をしていることをこの町の教育、として進めていくのは非常に嬉しい。

○健康、医療、福祉の分野で、行政が先頭に立ち健康づくりをするという姿勢を見せれば、町民の意識もちがってくるのではないかと思う。

○高校生のアンケートの中で、あなたが町長だったらどう考えるか、という質問があり、若い人達の声というのは率直でまた面白くて、ユーモアがあって、現実的で、いいなと思った。

○この問題の一番大事なところは、安芸太田町が本当に存続できるのかということが一番の根幹ではないかと思っている。

○地域商社あきおおたは今のところは観光関係で精一杯という感じがしてならない。地域のいろんな産業振興への支援をお願いしたい。

○優先順位をどう決めていくかが大変な作業になると思う。何を評価の物差しにして、どこまで目指すのかをみんなで決めて、それに効果的に働くものを優先的に限られたヒト、カネの中で取り組んでいくことが重要である。

○本当に一人暮らしが多い。そんな人が病気になるとどうなるのか、その医療も大切だと思う。

○子育て、次世代の育成というが一番大切だと思う。若い方に町を支えてもらう体制を考えてもらえれば良いと思う。

○農業の方で言うと有害鳥獣被害が大きい。産業の優先的な施策として入れていただきたい。

○本町の農産物は市場での競争力、生産量が全然たりない。

○子どもの数が少ない現実の中で、逆手にとって手厚い教育を教育委員会全体で頑張っている。

英語の点数が今回トップだった。これはALT 2名体制、コーディネーターを1名加えて、手厚い英語教育がなされてきた第一歩だと思う。

○特に産業、地産地消促進することで生産者の収益向上や、農林水産物の農業の資源を増やすとあるが、具体的に何をするのか、その原点が私は欠けていると思う。

○町の約90%が山である、その資源を活かすために林野庁あるいは県の林業課との人事交流を進めるべきではないか。

○農産物についても県の農業普及員とか、そういう人がいないので道の駅にも、農産物の出荷が少ない。他の市町の客が多い道の駅は農産物がとても多い。本町にかせげる農産物がないのは専門性のある人材がないのが原因だと考えられる。

○5G、Society5.0の間系で話をする際に地域が変わるイメージが非常に大事、DVDを作って町民にPRできれば良い。

○5年前、6年前ぐらいから戦略会議の関係でがんばるビジネス支援、事業継承を支援している。町内の事業者数が390件になってから横ばいが4年続いており、この目標に対する成果がでていない。

○この計画はどのようなタイトルでどのようなものを訴えてひきつけるか、まずそこ一点を考えていただきたい。

○長計には住民参加が求められている。

○加計高校は非常に苦しい時期があったが、改善し、特色ある高等学校として注目されている。小さくてもきらりとひかる立派な高等学校として持続可能性を見出している。安芸太田町の姿を加計高校が示していると思う。まちの最大の課題は人口減少と地域経済の縮小、この状況下でどうやって持続可能なまちを作るのが最大のテーマである。

○定住、人口対策の分野の中で、SDGsという手法を表記しているが、町民又は関係者が自覚し、だが、どういう対応をしていけば持続可能な町が実現するのか、時に非常に大胆に選択と集中を迫られることもあるかと思う。加計高校に習いながら、やればできるという方向を示してほしい。

5. アンケートについて

アンケートでは、自由記述で多くみなさんから提言や意見を頂くことができた。この提言や意見をどのような形で、公表し、後期基本計画に反映していくか検討していく。

6. SDGsについて 資料6

7. 今後のスケジュールについて 資料7

8. その他

9. 閉会